

<公開授業> 宮崎大学教育学部附属中学校

情報生産プロジェクト ～学校紹介新聞を創造しよう～

発表者 教諭 鬼塚 拓

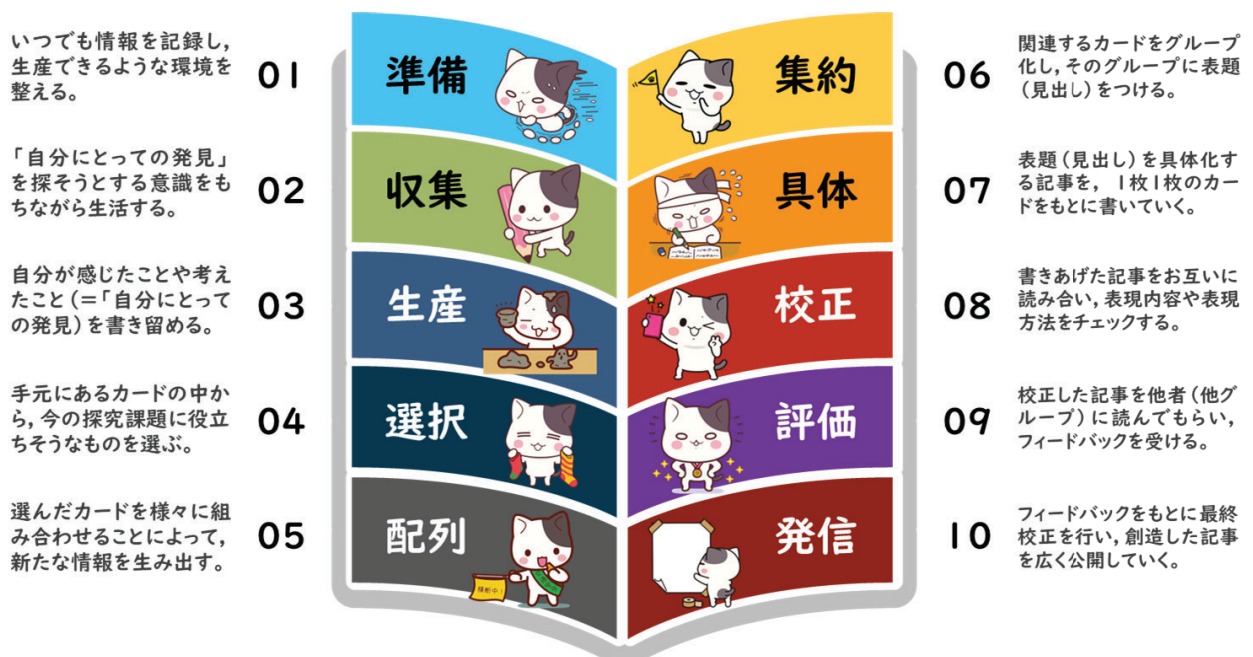
1 はじめに

宮崎大学教育学部附属中学校（以下「宮大附属中」と略記）では、子どもたちが自分のキャリアを探究するための方法として「情報生産プロジェクト」を採用している。「情報生産プロジェクト」とは、子どもたちが日々の生活のなかで感じたことや考えたこと（＝生産した情報）を、名刺サイズのカードに記録し、必要に応じて手元にあるカード（情報）を取り出し、編集し、課題を解決したり、探究を進めたりすることを通して、「情報消費者から情報生産者への成長」を目指すプロジェクトである。

2 本授業の趣旨

(1) 単元について

本単元「情報生産プロジェクト～学校紹介新聞を創造しよう～」は、宮大附属中で生活し、学習する子どもたち自身が生産した情報を集め、組み合わせ、編集することを通して、「子どもたち目線」からの学校紹介新聞を創造することを目指している。子どもたちはこの単元を通して、「自分たちが学校生活を送る宮大附属中とはいったいどのような学校だと表現できるのか」という探究課題に挑む。「情報生産プロジェクト」と連動した本単元の活動の流れは以下の通りである。



(2) 本時について

本時は上記の図中【04 選択】【05 配列】【06 集約】に位置付く授業である。本時の授業では、子どもたちが日々の生活のなかで生産してきた情報を持ち寄り、宮大附属中への進学を考えている小学生に向けて、どのようなかたちで「宮大附属中のリアル（大人目線からの情報ではなく、子どもたち自身が宮大附属中の生活を通して学び得たこと）」を伝えていくことができるかを各チームで議論する。選択し、配列し、集約することによって生産した新たな情報を

発表し合い、お互いにフィードバックしながら、情報の質を高めていくことを目指す。

3 本時の学習指導

(1) 目標

日々の生活のなかで生産してきた情報を持ち寄り、宮大附属中への進学を考えている小学生に向けて、どのようなかたちで「宮大附属中のリアル」を伝えていくことができるかを各チームで議論することを通して、情報の質を高めていく。【主体的に学習に取り組む態度／思考力・判断力・表現力】

(2) 学習過程

主な学習活動	留意点等	準備等
1 「探究課題」を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 宮大附属中への進学を考えている小学生に向けて、どのようなかたちで「宮大附属中のリアル」を伝えていくことができるだろう？ </div>	○ 学校パンフレット（公式）では伝えられない情報を中心に編集し、新聞を創造していくことを確認できるようにする。	プレゼン
2 本日の活動の流れを確認する。		
3 【選択】情報カードボックスに入っている情報カードを繰り返しながら、「宮大附属中への進学を考えている小学生に向けて、宮大附属中のリアルを伝えるには、自分の手元にあるどのような情報をピックアップすべきか」を考える。	○ 時間を有効に使うために、事前にある程度選択しておくようにする。	情報カードボックス
4 【選択】情報カードボックスの中から「選りすぐりの3枚」を選択する。		
5 【選択】チーム内で各自の「選りすぐりの3枚」を発表し、共有する。	○ 議論の流れによっては「選りすぐりの3枚」以外の情報カードも有効に使うようにする。	
6 【配列】チーム内で「宮大附属中への進学を考えている小学生」に伝えたい／伝えるべき情報を整理する。		
7 【集約】机上に集められ、並べられた情報カードを、KJ法を用いてグループ化し、各グループに表題（記事の見出し）を付ける。	○ これまでに読んだ新聞記事を参考にしながら表題（見出し）を考えられるようにする。	新聞記事
8 各チームが生産した新たな情報（「表題」等）を発表し、フィードバックを送りあう。		
9 今後の活動の見通しを確認する。		プレゼン

※ 情報生産プロジェクトを実践するにあたって、以下の文献に大きな示唆を受けた。

- 梅棹忠雄（1969）『知的生産の技術』岩波書店
- 上野千鶴子（2018）『情報生産者になる』筑摩書房
- 奈須正裕（2021）『個別最適な学びと協働的な学び』東洋館出版社